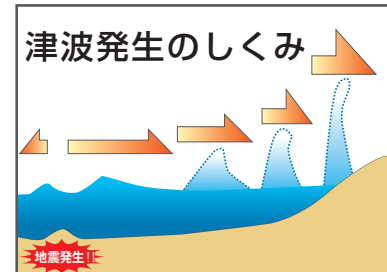


津波のしくみや、津波警報・注意報、地震がおきてから避難するまでのとるべき行動について知しましょう。津波がおきるときにどう行動すべきかを学び、いざというときに命を守る行動をとれるよう日頃から想定しておきましょう。

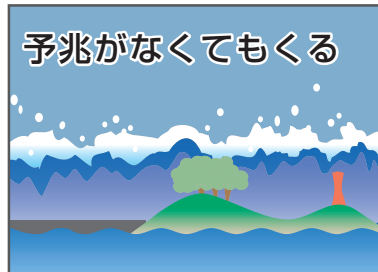
津波のしくみ、特徴について



- ①地震により海底が隆起・沈降します。
- ②海面波動が大きな波となって四方八方へ伝わり、沿岸部を襲います。



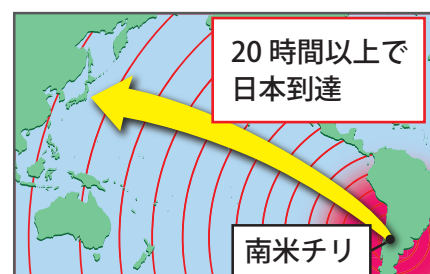
津波は河川を遡上するため、海から離れた場所でも浸水する可能性があります。



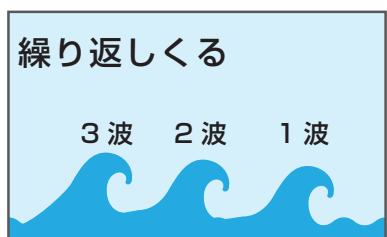
必ずしも、津波の前に引き潮（予兆）があるとは限りません。引き潮がなくても津波はきます。

遠地津波について

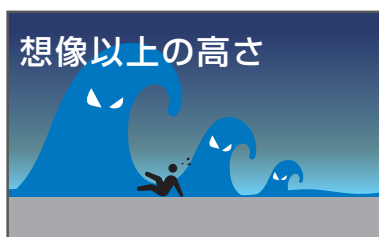
国外でおきた地震により発生し伝播した津波を遠地津波といいます。1960年、2010年のチリ地震では、地震発生から20時間以上で三陸海岸沿岸を中心に津波が襲来し、大きな被害をもたらしました。



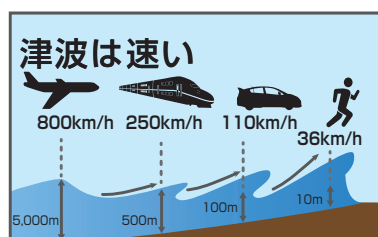
出典：総務省消防庁 津波災害への備え



津波は繰り返してきます。一度引いたからといって沿岸へ戻るのは大変危険です。



津波の高さは沿岸の地形などに大きく左右され、想像以上の津波が発生するおそれがあります。



津波は非常に速く襲ってきます。津波が見えてからでは逃げ切れません。

津波情報（津波警報、津波注意報）と対応について

警報の名称	予想される津波の高さ		皆さんの対応	防災行政無線の広報
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報 (特別警報)	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は ただちに指定緊急避難場所 やできるだけ高いところへ	約3秒間のサイレン音が続きます。 サイレン3秒吹鳴 サイレン3秒吹鳴 サイレン3秒吹鳴 2秒休止 2秒休止
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	沿岸部や川沿いにいる人は 指定緊急避難場所やできる だけ高いところへ	約5秒間のサイレン音が続きます。 サイレン5秒吹鳴 サイレン5秒吹鳴 6秒休止
津波注意報	1m (0.2m≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の近くにいる人は指定緊急 避難場所やできるだけ高い ところへ	約10秒間のサイレン音が続きます。 サイレン10秒吹鳴 サイレン10秒吹鳴 2秒休止

津波フラッグについて

津波情報（警報・注意報）が発表されると、テレビやラジオ、サイレンなどでお知らせするほか、海水浴場では「津波フラッグ」が掲げられます。津波フラッグを見かけたらすぐに高台に逃げましょう！



地震発生から避難するまで

地震がおきてから避難するまでの流れを学び、それぞれの状況でとるべき行動を確認しましょう。津波から自分と大切な人の命を守るために様々な状況を想定しておきましょう。あらかじめ逃げる高台や高い建物を決めておくなど日頃できることをしておきましょう。

1. 身の安全を守る！（シェイクアウト行動）

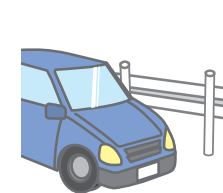
まず姿勢を低くし、机の下などに入って頭・首を守りましょう。まず低く頭を守り動かない



カバンなど手元にある物で頭・首を守りましょう。



車に乗っている場合は、交差点を避け道の左側に停車しましょう。



津波情報（警報・注意報）が発表されたら

2. 避難するとき



外出前にブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難しましょう。



非常持出品の持ち出しは可能であれば行いましょう。時間がな



崩れそうな家や塀から離れて近づかないようにしましょう。



車は道路外、または道路の左側に置いて鍵は差したまま避難しましょう。

3. より高いところへ逃げる！



「遠く」よりも「高い」ところへ避難！
逃げ遅れたときは近くの高台や高い建物に避難しましょう。原則歩いて避難！



津波は繰り返してきます。津波情報（警報・注意報）が解除されるまでは高いところに留まってください。

津波情報（警報・注意報）が解除されたら

4. 指定避難所などに避難



津波情報（警報・注意報）が解除されたら、指定避難所などに避難しましょう。



自宅が被災した可能性のある場合は、決して戻らず安全な場所に避難しましょう。

津波から避難する3つの心得



想定にとられない

率先避難者たれ
(津波てんでんこ)

最善を尽くす